

Title	現代新聞の「うれしい+名詞」表現における感情惹起のパターン
Author(s)	李, 河恩
Citation	阪大日本語研究. 2019, 31, p. 73-88
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/72075">https://hdl.handle.net/11094/72075</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 現代新聞の「うれしい+名詞」表現における感情惹起のパターン

## Expression Patterns of Emotionality of “*Ureshii*-plus-Noun” Constructions in Modern Japanese Newspapers

李 河恩  
LEE Ha-Eun

キーワード：感情形容詞、連体用法、感情主、一人称的使用、三人称的使用、枕詞的用法

### 要旨

感情形容詞の連体用法のうち、被修飾名詞が（感情主に感情を引き起こす）「対象」を表すタイプに注目して、その感情の引き起こし方に何らかのパターンがあるかを、典型的な感情形容詞「うれしい」の現代新聞における使用を例に検討した。パターンの取り出しに当たって、感情形容詞（感情）と被修飾名詞（感情の対象）との関係だけでなく、感情主（感情の主体）も加えて全体の関係を捉えることが必要であるとの見通しから、書き手と「うれしい」の感情主が一致する「一人称的使用」と一致しない「三人称的使用」との区分を分析の出発点とし、それと結びつきやすい被修飾名詞を統計的有意性の観点から取り出して、パターン取り出しの基礎的なデータとした。分析の結果、①感情主の一人称的使用において、被修飾名詞の表す〈言語的伝達〉の具体的な《内容》が感情を引き起こすパターン、②感情主の三人称的使用において、被修飾名詞の表す〈勝利に関する出来事〉の具体的な《状況》が感情を引き起こすパターン、③同じく三人称的使用において、被修飾名詞の表す〈人間活動に関わる事柄〉の具体的な《内容》が感情を引き起こすパターンの三種を取り出し、感情性や属性表現化の観点からそれぞれの特徴を検討したほか、パターン②を「枕詞的用法」とすることの是非についても論じた。

### 1. はじめに

これまでの感情形容詞の研究によると、感情形容詞は通常、特に述語用法において発話者が自分の感情を表現する際に用いられるものであり、他者の感情を表す場合には「がる」「そうだ」などを用いて間接的に伝えなければならないとされる。また、感情形容詞が連体用法で用いられる場合は、感情を表すといった元々の感情形容詞の性質が薄まり、修飾する名詞の属性を表わすことが多いともされている。

後者の、感情形容詞の連体用法における属性表現化は、被修飾名詞が感情の「対象」を表す結びつきにおいて起こるとされている。感情形容詞の連体用法における感情形容詞と被修飾名詞との意味的な関係にはいくつかのタイプがあるが、感情形容詞の属性表現化とは、被修飾名詞が感情の対象を表し、それによって感情の主体（感情主）に引き起こされる感情を感情形容詞が表すという結びつきにおいて、その感情が被修飾名詞の属性を表していると捉えられるも

のだからである。

ただし、このタイプの結びつきならすべて属性表現化するというわけでもなく、感情形容詞によって、また、同じ感情形容詞でも場合によって、属性表現化することもしないこともあるようであるが、その詳細は明らかにされていない。それは、おそらく、この結びつきの「被修飾名詞が感情形容詞で表される感情を引き起こす」ということの内実、具体的な様相がなお明らかになっていないからだと考えられる。そこで、本稿では、感情形容詞の連体用法のうち、被修飾名詞が、感情主に感情を引き起こすところの「対象」を表すというタイプに注目して、その感情の引き起こし方に、属性表現化とも関係する何らかのパターンがあるのかどうかということを、典型的な感情形容詞「うれしい」の現代新聞における使用を例に検討してみたい。

## 2. 問題のありか

感情形容詞の連体用法における属性表現化に関しては、認知言語学の観点から形容詞文を分析した篠原（2002）が「対象に接した際に恒常的にえられる感情であったり、話者によって判断のゆれが少なく、万人がほぼ同一のある種の対象に対して同様の感情をいだく」と「話者の心情が対象の属性として語られる傾向」があるとし（p.280）、感情の対象（被修飾名詞）が感情主にその感情を引き起こすような属性が感情形容詞で表されていると見ている。ただし、篠原は「高い」「長い」などといった属性形容詞は「個人の経験と関係なく決まってくる」ため明らかな属性と感じられるが、感情形容詞は直接的に後ろの名詞の属性とは考えにくい側面があると述べ、属性形容詞の属性と感情形容詞の属性が全く同じものではないことを強調している。

同様の見方は、連体用法の感情形容詞と被修飾名詞との意味的關係の研究においても提示されている。村上（2017）は、両者の關係を「主体の心理的側面のむすびつき」、「対象の属性指定のむすびつき」、「感情の内容指定のむすびつき」の3種に分類した畢（2010）と、連体修飾節と名詞の關係を「ウチの關係」と「ソトの關係」に分類した寺村（1975）の論を踏まえて、感情形容詞と被修飾名詞との意味關係を、名詞を中心に「対象」「経験者」「とき」「内容」「表出物」「相對補充」「その他」の7種に分類し、「対象」「経験者」「とき」は「ウチの關係」、「内容」「表出物」「相對補充」「その他」は「ソトの關係」という統語關係を持つとしている。このうち、「対象」とは「被修飾名詞が感情形容詞で表される感情を引き起こすもの」という關係であり、たとえば「悲しい思い出」「懐かしい人」「迷惑な漂着物」において、被修飾名詞はそれぞれ「悲しい」「懐かしい」「迷惑な」という感情を引き起こすような属性を持っているとした上で、感情形容詞が名詞の属性を表すのは「7分類のうち『対象』として解釈が可能な例だけである」と述べている。

ただし、こうした「対象」の結びつきであれば感情形容詞はすべて属性を表すようになるかといえば、そうではない。これについては、つとに西尾(1972)が、たとえば「いやな」は、「あのような人はいやです」のような述語用法では「特定の個人の感情の表現であることが多い」が、「いやな匂い」のような連体修飾語の場合には「感情の主体がぼやけて、名詞のあらず事物の属性表現のようになっている例がしばしばみられる」としつつも、「もっとも、すべての感情形容詞が属性表現の性質を帯びる」わけではなく、たとえば「すきな」「きれいな」「ほしい」などは「好きな女(とつれだって)」「嫌いな学問(にも利益が〜)」「欲しいもの(を買ってやる)」のように「いつでも感情の主体になる特定の人が存在しているか、背後にはっきり想定され、属性表現化することの起こりにくい」感情形容詞であると述べている(p.34-35)通りである。ここに挙げられている例は、すべて「対象」の結びつきである。

このように、「対象」の結びつきは、感情形容詞の属性表現化の必要条件ではあっても十分条件ではないようであり、どのような場合に属性表現化するかという、より具体的な条件の解明が求められる。そのためには、「対象」の結びつきが作り上げる「被修飾名詞が感情形容詞で表される感情を感情主に引き起こす」という関係ないし作用のより詳しい内容を明らかにする必要があるものと考えられる。

### 3. 分析の対象

上述したように、本稿では、感情形容詞の連体用法のうち、被修飾名詞が感情主に感情を引き起こす「対象」であるタイプの結びつきに注目して、その感情の引き起こし方に、属性表現化とも関係する何らかのパターンがあるのかどうかということを、典型的な感情形容詞「うれしい」の現代新聞における使用(以下、「うれしい+名詞」)を例に検討する。

コーパスには、『CD-毎日新聞記事データ集<sup>1)</sup>』を用いる。1991年から2015年までの25年分、全紙面の記事本文を対象に、以下のような例を除いて、「うれしい」が「うれしい」感情を引き起こす実質名詞を修飾している例を取り出した。得られた用例は、延べ1,186例である。

- ・「うれしい」に続く名詞が形式名詞であるもの
- ・「うれしい」に続く名詞が「うれしい」感情を引き起こす「対象」ではないもの  
例：人、時間、時、気持ち、気分、顔、声、限り、至り など
- ・「うれしい+名詞」が作品名、団体名、商品名、施設名などを表し、「うれしい」と名詞を分離して分析することができないもの  
例：「うれしいひな祭り」(作品名：童謡)、「うれしいワイン」(商品名)
- ・連載小説、歌詞など、作品の中に用いられているもの

- ・地の文ではなく、発話引用文、インタビューの中に用いられているもの
- ・本文（写真説明を含む）ではなく、見出し（主見出し・袖見出し）に用いられているもの

#### 4. 分析の出発点

「被修飾名詞が感情形容詞で表される感情を感情主に引き起こす」という関係ないし作用をより詳しく検討するには、感情形容詞（感情）と被修飾名詞（感情の対象）との関係を見るだけでなく、「感情主に引き起こす」とある以上、そこに感情主（感情の主体）も加えて全体の関係を捉えることが必要であろう。同時にそれは、感情主の人称に制限のある述語用法との関連性を問うという点でも意味のあることであるように思われる。

そこで、新聞の「うれしい+名詞」を感情主の観点から観察すると、それは、まず、書き手と「うれしい」の感情主が一致する「一人称的使用」と、書き手と感情主が一致しない「三人称的使用」とに分類することができる。(1)は、書き手である「私」が「(頂いた)ご支援」を「うれしい」と表現したもので、一人称的使用の典型例である。用例末尾の( )内は掲載紙の発行日、実下線は「うれしい+名詞」表現、波下線は感情主を表し、いずれも筆者による。

- (1) 私が看病で病院通いの続く日には、庭の植木への水やりやごみ出し、回覧板の内容をメモしてポストに入れて下さる等々、本当にうれしいご支援を頂きました。(2004年7月27日)

一方、三人称的使用は、書き手が自分以外の第三者を感情主とするもので、(2)は個人、(3)は企業、(4)は共通の属性を持つ人々の集合がそれぞれ「うれしい」の感情主となっている例である。

- (2) 第30期新人王戦決勝三番勝負第2局は、金秀俊七段が井山裕太四段に白番中押し勝ちし、2連勝で新人王を獲得した。金はこれまで公式戦準優勝5回で、6回目のチャンスでうれしい初優勝を果たした。(2005年9月27日)

- (3) まずはエルブランド。5年ぶりのフルモデルチェンジである。97年に初代が登場したときは日本にはかつてなかったLクラスミニバンとして、センセーションを巻き起こした。ニッサンとしてはうれしい大ヒット商品となった。(2002年6月27日)

- (4) うな重、てんぷら、旬の素材を使った「季節の盛り込み」の3品から2品を選び、さら

にごま豆腐や刺し身、抹茶のアイスクリームなどデザートが付く。和食好きにはうれしい内容だ。(2003年6月12日)

このほか、数は少ないが(5)のように不定称が感情主である例や、(6)のように文中に感情主が明示されていない例もあったが、これらも三人称的使用に分類する。

(5) 誰にも楽しい思い出や、うれしい記憶はあるだろうが、率直に話すのは恥ずかしい気がするものだ。(2001年11月16日)

(6) 「快なる哉(かな)」の音読みで、とても気分のいいこと。「快哉を叫ぶ」はうれしい出来事に接し喜びの声を上げること。(2015年10月15日)

分類の結果、1,186例のうち一人称的使用が627例(52.9%)、三人称的使用が559例(47.1%)ということになったが、こうした感情主の人称的区別が果たして分析の出発点として有効かどうかを確認するために、被修飾名詞の中にどちらかの使用に偏って現れるものがあるかを、二項検定を用いて調べた<sup>2)</sup>。ただし、より多くのデータを取り出すために、有意水準(p)は一般的に採用される5%ではなく10%に設定した。それぞれの使用で有意に多いと考えられる被修飾名詞を表1と表2に示す。一見して、一人称的使用に偏る名詞と三人称的使用に偏る名詞との間には何らかの違いがあることが予想されるが、このことは、感情主の人称的区別を分析の出発点とすることに一定の有効性があることを示すものと思われる。

表1 一人称的使用に多い被修飾名詞 (p<0.1)

順位	名詞	一人称的使用	三人称的使用	p値
1	便り	41	4	0.0000
2	言葉	44	8	0.0000
3	ニュース	63	19	0.0000
4	話	41	10	0.0000
5	返事	12	0	0.0005
6	一言	12	1	0.0029
7	記事	7	0	0.0116
8	メール	6	0	0.0219
9	電話	9	2	0.0396
10	話題	5	0	0.0414

11	知らせ	27	17	0.0647
12	体験	4	0	0.0783
13	答え	4	0	0.0783
14	反響	4	0	0.0783

表2 三人称的使用に多い被修飾名詞 (p&lt;0.1)

順位	名詞	一人称的使用	三人称的使用	p 値
1	初勝利	0	28	0.0000
2	プロ初勝利	0	10	0.0005
3	初白星	0	9	0.0011
4	勝利	0	8	0.0024
5	初優勝	0	8	0.0024
6	1勝	0	7	0.0051
7	白星	0	6	0.0109
8	サービス	1	7	0.0218
9	初受賞	0	4	0.0492
10	初出場	0	4	0.0492
11	勝ち越し	0	4	0.0492
12	番組	0	4	0.0492
13	情報	2	7	0.0518

## 5. 分析の結果

### 5.1 一人称的使用

一人称的使用は書き手と感情主が一致する使用であり、いわゆる一人称体の文章に現れるから、読者投稿に最も多く(290例(46.4%))、その他、オピニオン、コラムなどの評論記事で用いられている。報道記事での使用は全く見られなかった。一人称体であるため文中に感情主を明示しない例も多いが、そのような場合でも文脈から書き手が感情主であることは容易にわかる。感情主が明示された例では、「私」(7)や「私たち」(8)などの一人称代名詞のほかに、「わが家」(9)や「編集部」(10)のような所属先、「日本人」(11)のような属性を表す語などが用いられている。

(7) 昨年、文相の諮問機関が「豊かな人間形成には寄り道も必要」との答申をまとめた。休学して、学ぶべき分野を見いだした私には、うれしい報告であった。(1997年6月26日)

- (8) 「(歌劇団の月刊誌)『歌劇』に連載していた時から岸さんの文章のファンで、……歯に衣(きぬ)着せずというか、豪快な文章でテンポよく読み進んでしまいます。タカラジェンヌの頑張りと素顔が垣間見れて得した気分です。私たちにとってもうれしい言葉です。(2000年7月7日)
- (9) 今年はわが家はうれしい出来事の連続だった。この喜びが長く続くよう一層家族のきずなを強め、健康に気を配り、励まし合っていかねばと、よすぎた一年を振り返っている。(1995年12月31日)
- (10) 昨年9月4日キャンパる掲載の「会いたい人 フランソワーズ・モレシャンさん」の記事が、関東学院大学公募制推薦入試文学部の小論文に使われました。編集部にとってうれしいニュース。(2010年2月12日)
- (11) 由紀さおりが、海外で注目を集めているのは、日本人として大変うれしいニュースである。全米で客が呼べるなんて、思い起こせばYMO以来……!?(2012年1月5日)

さて、一人称的使用に偏る14の被修飾名詞(表1)を見ると、「体験」を除く「便り」「言葉」「ニュース」「話」「返事」「一言」「記事」「メール」「電話」「話題」「知らせ」「答え」「反響」の13語はいずれも〈言語的伝達の形式や媒体〉といえるものである。そして、これらの名詞がどのように感情を引き起こしているかと言えば、以下に示す例のように、〈言語的伝達〉の具体的な《内容》が「うれしい」という感情を引き起こしていると考えることができる。なお、用例中の下線は「うれしい+名詞」表現、二重下線は被修飾名詞が「うれしい」という感情を引き起こすその《内容》を示した部分であり、いずれも筆者による。

- (12) 京都市の池尻真利子さんから「男の子育て風雲録、毎回楽しみにしています」と、うれしいお便りをいただきました。(1997年7月16日)
- (13) 私が降らせたわけではないけれど、雪に慣れないお嫁さんが可哀そうで気遣うと、「私、雪を見ると駆け出したくなるほど元気が出るんです」と、うれしい言葉が返ってきた。(1996年2月17日)
- (14) さて、先日、嬉(うれ)しいニュースが。結婚2年の知人夫婦に待望の第1子が誕生し

たのです。(2015年9月7日)

- (15) 最近、都会の人が森林保全に携わり始めたという。うれしい話だと思う。(1996年4月27日)
- (16) 山小屋からの夜景は、孫が住んでいる神奈川県厚木市や秦野市街の光の海と相模湾が広がる美観です。翌朝起きると、冠雪の富士山が朝日を受けてしっかりとそびえています。下山して聞くと「また行きたい」とうれしい返事が返ってきました。(2012年12月25日)
- (17) 「このコーヒー、おいしいね」「お花がいつもいいですね」。こんなうれしい一言に支えられ、励まされてきた。(2001年3月8日)
- (18) 1890年に和歌山・串本沖で起きた軍艦エルトゥール号遭難事故に始まる日本とトルコの友好を描く映画「海難1890」の撮影が終了し、12月5日から全国公開されるといううれしい記事を見つけました。(2015年7月20日)
- (19) 先月、うれしいメールが届いた。「市の負担での活動推進を要請したところ快諾が得られて、6校目の芝生化がなったところ」です。(2006年12月23日)
- (20) そして今日午後三時を過ぎたでしょうか、一週間と一日で待ちに待っていた内定という、うれしいお電話をいただきました。(1993年7月23日)
- (21) そんな中、大阪城天守閣の入場者が急増し、外国人客が4分の1を占めたというニュースはうれしい話題でした。(2007年5月24日)
- (22) うれしい知らせが届いた。日本在住30年になるチェコ人の友人が、長年の思いを込めた音楽CDを自費製作、故郷へのツアーも実現した。(2011年11月25日)
- (23) 英国ケンブリッジ大に勤めるセン教授は、「長期的には」と前置きしたうえで「日本経済に問題はない」とうれしい答えを出してくれた。(1998年12月3日)

- (24) 「大変着心地がいいので、愛用しています」と、お客様からうれしい反響が届きました。  
(2001年3月21日)

また、残る「体験」についても、以下のように、その具体的な《内容》が「うれしい」という感情を引き起こしていることに変わりはない。

- (25) 仕事で幾度か、喜劇に出演する役者さんたち取材できたのもうれしい体験だった。  
(2001年1月27日)

以上から、一人称的使用においては、

①感情の対象としての被修飾名詞が〈言語的伝達の形式や媒体〉を表し、その〈言語的伝達〉の具体的な《内容》が感情主＝書き手に「うれしい」という感情を引き起こすというパターンを取り出すことができる。

## 5.2 三人称的使用

三人称的使用に偏る13の被修飾名詞(表2)を見ると、そのうちの10語は「初勝利」「プロ初勝利」「初白星」「勝利」「初優勝」「1勝」「白星」「初受賞」「初出場」「勝ち越し」というスポーツなどの勝利や受賞に関わる名詞であり、残る3語はそれらとは性質の異なる「サービス」「番組」「情報」という名詞である。この二つの語群の違いは、興味深いことに、感情主が特定できるか(感情主＝特定)できないか(感情主＝不特定)という違いに対応しているようである。

三人称的使用では書き手と異なる主体が感情主であるわけだが、それには、先に挙げた(2)(3)のように感情主が特定の個人や組織である場合と、(4)のように不特定の人間の集合である場合とがある。

- (2) (再掲) 第30期新人王戦決勝三番勝負第2局は、金秀俊七段が井山裕太四段に白番中押し勝ちし、2連勝で新人王を獲得した。金はこれまで公式戦準優勝5回で、6回目のチャンスでうれしい初優勝を果たした。(2005年9月27日)
- (3) (再掲) まずはエルグランド。5年ぶりのフルモデルチェンジである。97年に初代が登場したときは日本にはかつてなかったLクラスミニバンとして、センセーションを巻き起こした。ニッサンとしてはうれしい大ヒット商品となった。(2002年6月27日)

- (4) (再掲) うな重、てんぷら、旬の素材を使った「季節の盛り込み」の3品から2品を選び、さらにごま豆腐や刺し身、抹茶のアイスクリームなどデザートが付く。和食好きにはうれしい内容だ。(2003年6月12日)

感情主=不特定には、(26)のように、感情主が明示されず、文脈からそれとわかる(この場合なら「乗客」)例もある。

- (26) 「八戸観音滝」や「干支大橋」(高さ100メートル、長さ385メートル)、「青雲橋」(高さ137メートル、長さ410メートル)、「高千穂大橋」(高さ75メートル、長さ96メートル)では、徐行運転のうれしいサービスもある。(2000年11月2日)

いま、表2の13の被修飾名詞について、それぞれの三人称的使用の用例を感情主=特定と感情主=不特定とに分けてみると、結果は表3のようになる。「初勝利」以下の10語では感情主=特定の例しかなく、逆に、「サービス」「番組」「情報」の3語では、「サービス」「番組」は感情主=不特定の例しかなく、「情報」も1例ではあるが感情主=不特定の例が多くなっていて、二つの語群は対照的な結果となっている。

表3 三人称的使用に多い被修飾名詞の感情主

順位	名詞	感情主=特定	感情主=不特定	計
1	初勝利	28	0	28
2	プロ初勝利	10	0	10
3	初白星	9	0	9
4	勝利	8	0	8
5	初優勝	8	0	8
6	1勝	7	0	7
7	白星	6	0	6
8	サービス	0	7	7
9	初受賞	4	0	4
10	初出場	4	0	4
11	勝ち越し	4	0	4
12	番組	0	4	4
13	情報	3	4	7

そして、この二つの語群は、それぞれの名詞がどのように感情を引き起こしているかという

点でも明瞭な違いを見せている。「初勝利」以下の10語はみな〈勝利に関する出来事〉を表す名詞であるという点で共通しているのだが、感情主＝特定の「うれしい」という感情は、その〈出来事〉そのものではなく、〈出来事〉に伴う具体的な《状況》によって引き起こされていると考えられる。例えば、上の(2)では、感情主(金秀俊七段)の「うれしい」という感情は、一見「初優勝」から引き起こされているように見えるが、正しくは「これまで公式戦準優勝5回で、6回目のチャンスで果たした初優勝」、つまり、「惜しいところまで来ながらもなかなか果たせず、やっと手にした初優勝」という《状況》によって引き起こされていると考えるべきである。これは、以下に示すように、「初優勝」以外の名詞でも同様である。なお、用例中の下線は「うれしい+名詞」表現、二重下線は被修飾名詞が「うれしい」という感情を引き起こすその具体的な《状況》を示した部分であり、いずれも筆者による。

- (27) プロ4年目で、うれしい初勝利を挙げた日本ハム・島崎は「ここまで長かった。一刻も早く両親に伝えたい」としみじみ。(1995年4月24日)
- (28) 順位戦C級2組は連敗スタートと厳しい洗礼を受けたが、3局目でうれしい初白星を挙げた。(2014年9月7日)
- (29) 昨年の決勝の相手も天理大。近大は2-2の大將戦で現主將の田村が一本負けして敗れた。その日から岡監督以下、全員がこの大会、ただ一点に気持ちを集中した。合言葉は「悔しさを忘れるな」。田村は「昨年は何日も眠れない日が続いたけど、これで本当にホッとできる」。岡監督も「きょうは眠れません」。近大にとって悔しい負けは、うれしい勝利へのプロローグだった。(1994年11月4日)
- (30) 木村文治監督が成績不振を理由に辞任し、シルバ監督代行が初めて指揮を執った横浜フ。不振の原因だった守備が、この日は最後まで崩れず、PK戦という難産の末ではあったが、うれしい1勝を手にした。(1995年5月11日)
- (31) 棋士になって棋聖戦、早指し戦と負け、順位戦でも森信雄に完敗で3連敗、丸3カ月勝ち星なしというキツイ洗礼を受けた。同時期に上がった渡辺明四段が勝ちまくっているだけにしばらく落ち込んでいたが、その後全日プロ、銀河戦と勝ち、そして順位戦で嬉(うれ)しい白星を挙げたのである。(2000年8月4日)

- (32) 二塁手は木下(日本石油)が6年目でうれしい初受賞。(1996年11月19日)
- (33) また西武から五月途中移籍の大久保(巨人)もチーム快進撃の原動力と認められ、8年目のうれしい初出場となった。(1992年7月11日)
- (34) 「今日、絶対に決めようと思っていた」という新入幕の時津海がうれしい勝ち越し。「次はご当所(長崎県出身)なので、負け越しだけはできないと思っていた」と気合を込めた一番だった。(1998年9月26日)

一方、「サービス」「番組」「情報」の3語は、〈人間活動に関わる事柄〉を表すという点で共通している(「情報」は一人称的使用での〈言語的伝達の形式や媒体〉とも共通する)が、感情主=不特定の「うれしい」という感情は、以下のように、各名詞の具体的な《内容》(二重下線部)から引き起こされていると考えられる。

- (35) 日替わり、空揚げ、焼き魚、コロッケメンチ=写真=など定食は10種以上。ごはん、みそ汁、サラダ、香の物、セルフサービスのコーヒーが付いて全品890円。ごはん大盛りでも同じ値段なのは、若者にうれしいサービスだ。(2002年3月7日)
- (36) ひと昔前のオヤジ&飲み屋のイメージはどこへやら、日本を象徴する文化になった感のあるカラオケ。これはカラオケフリークにはうれしい番組。ゲストのヒットメドレーから、カラオケ定番曲の歌唱レッスン、若者に支持されている曲の紹介まで、家族で楽しめる。(1995年6月14日)

以上から、三人称的使用においては、

②感情の対象としての被修飾名詞が〈勝利に関する出来事〉を表し、その具体的な《状況》が感情主=特定に「うれしい」という感情を引き起こすというパターンと、

③感情の対象としての被修飾名詞が〈人間活動に関わる事柄〉を表し、その具体的な《内容》が感情主=不特定に「うれしい」という感情を引き起こすというパターンの二つを取り出すことができる。

## 6. 考察

以上、25年分の『毎日新聞』の記事本文をコーパスとして、感情形容詞「うれしい」の連体用法のうち「対象」の結びつきに注目して、その感情の引き起こし方に何らかのパターンがあるかどうかを分析・検討した。その結果、以下の三つのパターンを取り出すことができた。

- ①感情主の一人称的使用において、感情の対象としての被修飾名詞が〈言語的伝達の形式や媒体〉を表し、その〈言語的伝達〉の具体的な《内容》が感情主＝書き手に「うれしい」という感情を引き起こすパターン
- ②感情主の三人称的使用において、感情の対象としての被修飾名詞が〈勝利に関する出来事〉を表し、その具体的な《状況》が感情主＝特定に「うれしい」という感情を引き起こすパターン
- ③同じく三人称的使用において、感情の対象としての被修飾名詞が〈人間活動に関わる事柄〉を表し、その具体的な《内容》が感情主＝不特定に「うれしい」という感情を引き起こすパターン

このうち、パターン①は、一人称主語の感情を表す述語用法と通底するもので、「うれしい」の感情性が最も顕著に表現される用法といえる。また、パターン③は、篠原（2002）のいう「万人がほぼ同一のある種の対象に対して同様の感情をいだく」場合に相当するものであり、したがって、この中では最も属性表現に近い用法といえよう。では、パターン②はどうか。

パターン②は、感情主が（書き手ではないものの）特定の主体であり、したがって、「うれしい」の感情性が明確であることはパターン①と同様である。異なるのは、パターン①が被修飾名詞の《内容》から感情が引き起こされるのに対して、パターン②が《内容》ではなく〈出来事〉に伴う《状況》から引き起こされるという点である。パターン①は、感情の対象そのものから感情が引き起こされるが、パターン②は、対象そのものではなく、（《状況》という）対象に付随する側面から引き起こされるという点で、感情の引き起こし方がより「間接的」とであると解釈できる。これは、おそらく、篠原（2002）が「感情形容詞は直接的に後ろの名詞の属性とは考えにくい側面がある」と述べるときの、感情形容詞の対象規定における「直接性・間接性」の問題に関係するもので、「うれしい」の場合、パターン①よりもパターン②の方がその「間接性」の度合いが大きいのではないか、ということである。

パターン②については、もう一つ、揚妻（2002）の「枕詞的用法」との関係がある。揚妻

は、マスコミの言葉遣いで情緒的な書きぶり・話しぶりとして問題視される「嬉しい初優勝」「悲しみの一週忌」など、「自分（一人称）以外の心的内容について、あたかも既に承知済みのごとく表現している」この種の表現がなぜ可能になるのかを、語用論・文体論レベルで論じたものだが、その前提として、次のように述べる（下線は筆者）。

「嬉しい初優勝」の類は、「たらちねの（→母）」「あしひきの（→山）」など枕詞と共通する側面を持つと思われる。「嬉しい初優勝」の「嬉しい」は、枕詞ほど後続する言葉への指定性が強いわけではないが、しかし、以下に続く名詞は「嬉しい」から常識的に予想がつく範囲内のものである（勝利、結婚、出産など）。また、「嬉しい（初優勝）」は、情緒的ニュアンスをかもし出しはするものの、実質的には特別な伝達内容があるわけではなく、あとの言葉を導き出す前置となるにすぎない点でも枕詞に共通している。そこで「嬉しい初優勝」の類をここでは、「枕詞的用法」と名付けることにする。（p.211）

揚妻は「うれしい初優勝」の「うれしい」には「実質的には特別な伝達内容があるわけではなく、あとの言葉を導き出す前置となるにすぎない」とするが、本稿における検討では、この種のパターン②の結びつきは、明確な特定の感情主を持ち、「初優勝」のような〈出来事〉に伴う具体的な《状況》が感情主に「うれしい」という感情を引き起こすのであって、これを「枕詞的用法」とする揚妻の前提には合致しない。確かに、「うれしい初優勝」という結びつきだけをみれば「特別な伝達内容はない」ように見えるが、それはこのパターン②が被修飾名詞「初優勝」の《内容》ではなく《状況》から感情が引き起こされるからであり、《内容》には無関係だからである。したがって、パターン②を「枕詞的用法」とするのは、少なくとも本稿の検討の結果からは、適当ではないように思われる。

## 7. 今後の課題

本稿では、新聞の「うれしい+名詞」における感情の引き起こし方に三つのパターンがあるとしたが、これは、これ以外にパターンがないということを主張するものではない。本稿では、パターンの取り出しに当たって、感情形容詞（感情）と被修飾名詞（感情の対象）との関係だけでなく、感情主（感情の主体）も加えて全体の関係を捉えることが必要であるとの見通しから、書き手と「うれしい」の感情主が一致する「一人称的使用」と一致しない「三人称的使用」との区分を分析の出発点とし、それと結びつきやすい被修飾名詞を統計的有意性の観点から取り出して、パターン取り出しの基礎的なデータとした。しかし、そのために、被修飾名詞の異なりが少なくなり、用例から予想される他のパターンについて言及することができなかった。

たとえば、(37) は三人称的使用の例であるが、感情主は特定、被修飾名詞は（本稿の分析では一人称的使用に多かった）「便り」という〈言語的伝達の形式や媒体〉を表す名詞で、その具体的な《内容》から「うれしい」という感情が引き起こされている。こうした用例は、今回の方法ではすくい上げることができなかったが、今後、コーパスを拡大するなどしてより多くのパターンを取り出すことをめざしたい。

(37) 演奏が終わると、「青春時代に戻った」「元気が出た」——といった声が、山崎さんの元が届く。「一緒にタンゴを聴いて隣の人と仲よくなった」と、うれしい便りを寄せる高齢者もいる。こうした声に励まされ年に約三十回、一般の演奏活動の合間をぬって施設を回る。(1992年1月15日)

#### 注

- 1) 本資料は、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座が毎日新聞社と交わした利用許諾契約・覚書に基づき使用したものである。
- 2) 計算に当たっては、表計算ソフトExcel2016のBINOM.DIST関数を用いた。なお、母比率は一人称的使用：三人称的使用=0.529：0.471とし、関数形式はFALSE（確率質量関数）とした。

#### 参考文献

- 揚妻裕樹（2002）「現代の『枕詞』—『嬉しい初優勝』という表現について—」佐藤喜代治編『国語論究 第9集 現代の位相研究』pp.210-237 明治書院。
- 斎藤俊雄・中村純作・赤野一郎編（1998）『英語コーパス言語学—基礎と実践—』研究社。
- 篠原俊吾（2002）「『悲しさ』『さびしさ』はどこにあるのか—形容詞文の事態把握とその中核をめぐって—」西村義樹編『認知言語学Ⅰ：事象構造』pp.261-284 東京大学出版会。
- 寺村秀夫（1975）「連体修飾のシンタクスと意味—その1—」『日本語・日本文化』4号 大阪外国語大学留学生別科（『寺村秀夫論文集Ⅰ—日本語文法編—』（1992）くろしお出版に再録）
- 西尾寅弥（1972）『形容詞の意味・用法の記述的研究』国立国語研究所報告44 秀英出版。
- 橋本和佳（2007）「名詞とそれを修飾する形容詞の関係」『日本語学』26, pp.26-10 明治書院。
- 畢曉燕（2010）「感情形容詞による連体修飾に関して—感情形容詞と名詞との意味的關係を中心に—」『日中言語研究と日本語教育』3, pp.67-77 好文出版。
- 村上佳恵（2017）「第5章 連体用法の感情形容詞と被修飾語の意味關係—うれしい人、うれしい話、うれしい悲鳴—」『感情形容詞の用法—現代日本語における使用実態—』pp.152-189 笠間書院。
- 森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店。

#### 調査データ

毎日新聞社『CD-毎日新聞記事データ集（1991-2015）』日外アソシエーツ

(博士後期課程学生)  
(2018年8月16日受付)  
(2018年12月3日修正版受付)  
(2018年12月20日掲載決定)